



# 「撮る」「書く」「話す」のいま

—自主規制と公権力介入を考える—

日時：2012年3月1日（木）18：30～20：30

場所：専修大学神田校舎 731 教室（7号館）

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8

入場料：無料（事前申込みは必要ありません）

- 水道橋駅（JR）西口より徒歩7分
- 九段下駅（地下鉄／東西線、都営新宿線、半蔵門線）出口5より徒歩3分
- 神保町駅（地下鉄／都営三田線、都営新宿線、半蔵門線）出口A2より徒歩3分（法科大学院へは徒歩1分）

挨拶 浅田次郎（作家、日本ペンクラブ会長）

パネリスト：

小野克己（日本ビデオ倫理協会）

河合幹雄（桐蔭横浜大学教授）

田原総一郎（ジャーナリスト）

山本太郎（俳優）—予定—

モデレーター：山田健太（専修大学 日本ペンクラブ理事）



浅田次郎



河合幹雄



田原総一郎



山田健太

問合せ： 社団法人日本ペンクラブ  
〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 20-3  
TEL: +81-03-5614-5391

溢れているように見えながら、必要な情報が伝わっていない。

「撮る」「書く」「話す」の現場では、

「息苦しい」という実感がある。

現場最前線で活動するパネリストたちとともに、

自主規制や公権力介入のあり方を考え、

表現の自由が尊重される社会とはなにかを問いかけたい。



# 「撮る」「書く」「話す」のいま —自主規制と公権力介入を考える—

日時：2012年3月1日（木）18：30～20：30

場所：専修大学神田校舎 731 教室（7号館）

「撮る」「書く」「話す」の現場では、「息苦しい」という実感がある。

警察が画像表現を自主審査する日本ビデオ倫理協会関係者を猥褻罪で逮捕し、東京裁判所から自主規制団体の自主自立の行為を真っ向から否定する司法判断が示された。

東京都は「東京都青少年健全育成条例」を改悪し、出版業界の自主的規制を否定し、有害図書かどうかを公権力が判断し、大阪では地方自治体の公権力が、教育という表現豊かな場への直接介入を強めようとしている。

東京地方裁判所は、ジャーナリストの田原総一郎氏に対し裁判の証拠として取材源を特定できる録音テープの提出を命ずる判決を下した。

さらに2011年東日本大震災によって引き起こされた福島原発事故に対しても、過去の「偽装」「やらせ」が明らかになった後も、なお真相を明らかにせず、「情報の透明性」には程遠いばかりか、反対を唱える者を「みせしめ」として公権力が弾圧するということが起こっている。

日本ペンクラブではこれらの動きに対し、声明を発表し、公権力の介入の危険性を訴えてきた。

今回は、これらの事例の当事者にお集まりいただき、警察の事情に詳しい専門家も交え、脅かされる「撮る」「書く」「話す」の現状を考えながら、公権力の介入の風潮に警鐘を鳴らすこととしたい。



**挨拶：浅田次郎（あさだ・じろう）** 1951年東京生まれ。1995年『地下鉄（メトロ）に乗って』（徳間書店）で第16回吉川英治文学新人賞を受賞。1997年『鉄道員（ぼっぼや）』（集英社）で第117回直木賞を受賞。2000年『壬生義士伝』（文藝春秋）で第13回柴田錬三郎賞を受賞。

2006年『お腹召ませ』（中央公論新社）で第1回中央公論文芸賞および第10回司馬遼太郎賞を受賞。2008年『中原の虹』（講談社）で第42回吉川英治文学賞を受賞。2010年『終わらざる夏』（集英社）で第64回毎日出版文化賞を受賞。

作家、日本ペンクラブ会長。直木三十五賞、吉川英治文学新人賞、山本周五郎賞、柴田錬三郎賞の各選考委員。

著書に『プリズンホテル』シリーズ、『天切り松間がたり』シリーズ、『蒼穹（そうきゅう）の昴（すばる）』『霞町物語』『シェエラザード』『沙高樓綺譚』『憑神』『天国までの百マイル』『椿山課長の七日間』『五郎治殿御始末』『月下の恋人』『月のしづく』『輪違屋糸里』『月島慕情』『夕映え天使』他多数あり。近著は、講談社刊『マンチュリアン・レポート』、文藝春秋刊『一刀斎夢録』。

## パネラー略歴：

**小野克己（おの・かつみ）** 1956年広島県生まれ。1978年日本大学芸術学部映画学科卒業。同年大映（株）入社。製作デスク、制作部、演出部を経てプロデューサー。

1999年 取締役企画制作部長。大映スタジオ所長、常務取締役を経て2002年退任2003年日本ビデオ倫理協会審査員。2006年同審査部統括部長。2008年3月 わいせつ図画販売助罪にて逮捕、起訴される。

主なプロデュース作品：「花物語」（1989年）「花のズッコケ児童会長」（1991年）「野獣死すべし」（1997年）「DEAD OR ALIVE 犯罪者」（1999年）



**河合幹雄（かわい・みきお）** 1960年、天理生まれ。京都大学理学部生物系卒、京都大学文学部聴講生として社会学を学んだ後、京都大学大学院法学研究科で法社会学専攻、博士後期課程認定修了。パリ第二大学留学。京都大学法学部助手をへて現職 桐蔭横浜大学法学部教授。法社会学専攻 日本法社会学会理事、日本犯罪社会学会常任理事。全国篤志面接委員連盟評議員。法務省矯正局における「矯正に関する政策研究会」委員。警察大学校嘱託教員。EMA（モバイルコンテンツ審査・運用監視機構）基準策定委員会委員。元横浜刑務所視察委員長。

著書：『安全神話崩壊のパラドックス 治安の法社会学』（岩波書店）『日本の殺人』ちくま新書、『終身刑の死角』洋泉社新書



**田原総一郎（たはら・そういちろう）** ジャーナリスト。1934年、滋賀県生まれ。60年、岩波映画製作所入社、64年、東京12チャンネル（現テレビ東京）に開局とともに入社。77年にフリーに。テレビ朝日系『朝まで生テレビ!』『サンデープロジェクト』でテレビジャーナリズムの新しい地平を拓く。98年、戦後の放送ジャーナリスト1人を選ぶ城戸又一賞を受賞。現在、早稲田大学特命教授として大学院で講義をするほか、「大隈塾」塾頭も務める。

『朝まで生テレビ!』（テレビ朝日系）、『激論! クロスファイア』（BS朝日）の司会をはじめ、テレビ・ラジオの出演多数。また、『日本の戦争』（小学館）、『田原総一郎自選集（全5巻）』『絶対こうなる! 日本経済』『田原総一郎責任編集 ホリエモンの最後の言葉』（アスコム）など、多数の著書がある。

**山本太郎（やまもと・たろう）** 俳優 一予定一



**モデレーター：山田健太（やまだ・けんた）** 日本ペンクラブ理事・言論表現委員長。専修大学人文・ジャーナリズム学科准教授。専門は言論法、ジャーナリズム論。BPO放送人権委員会委員、日本出版学会理事。近著に『法とジャーナリズム』『ジャーナリズムの行方』。